

経済学部 安藏伸治教授), ③「晩婚化に伴う不妊治療の問題点について」(宮城悦子委員)の報告があった。国立社会保障・人口問題研究所からは「日本の将来推計人口 一次期推計の基本的考え方」について報告があり, 次期推計の出生, 死亡, 移動の仮定値設定に関する基本的な考え方について説明がなされた。質疑応答では, 2006年に入ってから結婚, 出生数上昇の取り扱い, 出生仮定値の設定方法における精緻化の方法等について審議がなされた。(金子隆一記)

第9回社会保障審議会人口部会

社会保障審議会人口部会の第9回会合が2006年11月14日(火), 厚生労働省で開催された。報告聴取として, 「平成17年国勢調査(第1次基本集計結果)」(総務省統計局)に関する報告がなされた。

主議題である「次期将来人口推計の方法と仮定設定」では, 国立社会保障・人口問題研究所より次期将来人口推計の前提, 仮定, および仮定値設定方法の主な変更点に関して報告がなされた。各項目に関する質疑応答の後, 次期推計が同研究所の推計方法によって行われ, 回目の会議上で結果が公表されることが確認された。なお, 終盤において経済財政諮問会議(2006年11月10日)の柳沢厚生労働大臣による発案に基づいて, 客観的かつ中立な立場で行われる将来人口推計とは別に, 「新人口推計公表後, 国民の結婚・出産に関する希望が一定程度かなった場合の人口構造の将来像を別途試算」し, これをもとに社会保障制度等を審議するための場を設ける考えがあることが政策統括官より報告された。(金子隆一記)

2006年度統計関連学会連合大会

2006年9月5日～8日, 東北大学川内キャンパス(仙台市)において2006年度統計関連学会連合大会が開催された。本連合大会は2002年度より, 日本統計学会, 応用統計学会, 日本計量生物学会の連合大会として開催されている。今次大会には約850名が参加し, これは過去5年間の連合大会で最大規模であった。

本大会では一般向けとして市民講演会が行われてきているが, 本年度は「人口減少と少子高齢化の社会と経済・統計データで読む21世紀の日本」というテーマが設定され, 金子隆一人口動向研究部長による「人口統計データの示す日本の過去, 現在, そして未来」及び京都大学大学院経済学研究科・橘木俊昭教授による「少子・高齢化の下での社会保障制度改革」の二つの講演が行われた。また, 企画セッションでは「人口センサスの方法転換問題」というセッションが設けられ, 小島宏国際関係部長による「人口センサスにおける国際移動者・外国人人口等の把握」をはじめとする, 我が国や諸外国の人口センサスに関する様々な報告が行われた。近年の大会では人口統計に関するセッションがそれほど多いとはいえない状況であったと思われるが, 国勢調査の実施や人口減少など人口統計に関する関心の高まりもあり, 市民講演会や企画セッションなどで人口関係のトピックが多く取り上げられたことは特筆すべきであろう。

その他, 当研究所や人口に関連する報告としては,

「国民生活基礎調査における二相抽出法を用いた分布推定」

……………石井 太(国立社会保障・人口問題研究所)
村山令二(厚生労働省)